



世界へのプレゼントになろう

第 2820 地区

HITACHI SOUTH ROTARY CLUB

【例 会 場】 要害クラブ TEL(0294)36-2020
 【例 会 日】 毎週火曜日 12:00~13:00
 【事 務 所】 日立市桜川町 2-25-3 桜川第 2 ビル 201 号室
 TEL(0294)36-5074 FAX(0294)37-2176
 Mail: info@hitachi-south-rc.org



Weekly Bulletin
週報 No.9

■会 長 石 川 悟 ■副 会 長 千 葉 省 三
 ■幹 事 川 村 昌 弘 ■会 報 委 員 佐 藤 信 彦

本日の例会：平成 27 年 9 月 8 日（火） 【プログラム】卓話 / 出席委員会

次回例会：平成 27 年 9 月 15 日（火） 【プログラム】卓話 / 会場監督

■ 9 月の例会予定

1 日 卓話 / 青少年奉仕委員会 8 日 卓話 / 出席委員会 15 日 卓話 / 会場監督
 22 日 休会（国民の休日） 29 日 卓話 / 新入会員卓話

例会報告

9 月 1 日（火）12:00 開会
 高島会員



会長の時間

石川 悟 会長



会長の時間をいただきます。

今日は卓話で茨城キリスト教大学の吉井先生をお迎えしております。よろしくお願ひ致します。

またお客様として、よかっぺまつりのキャップの桜井様、石川様、赤津様、ありがとうございます。今年は日立南ロータリークラブとして、よかっぺまつりに参加しようということで、朝日会員と川村幹事に会議に出てもらっています。よろしくお願ひ致します。

最近、陽が短くなってすぐ暗くなります。薄暗いところでジョギングしておりましたら、若い人が何人かで道端で話をしていました。ちょっと怖いなと思いましたが、そのうちの一人が赤ちゃんを抱いていて安心しました。

子どもというのは、人と人とを和ます力があります。私がアメリカにいたときに、妻が幼い子どもたちを連れて外に行くと、すぐに声を掛けてもらえ交流が出来たと言っていました。本当に子は宝です。そして子どもの教

育は本当に大事です。

今日卓話をいただく吉井先生の紹介をします。

吉井先生のお父様は、ひたちなか総合病院の副院長をしております。私とは筑波大学時代からの古い知り合いです。息子さんであられる吉井先生が、障害児教育をなさっているとお聞きしまして、ぜひ卓話をとお願ひ致しました。快く引き受けて下さり、楽しみにしています。

以上、会長の時間といたします。ありがとうございます。



幹事報告

川村幹事

- 倉沢ガバナーから公式訪問の御礼状が届いております。
- 9 月 25 日の炉辺会合の出欠締切は 10 日です。よろしくお願ひいたします。



委員会報告

雑誌・広報委員会

弓野委員長

- 今月の「ロータリーの友」読みどころ
 14 ページにまた例会の食事の話題が出ています。食事が重要だということが感じられます。
 38 ページ。ポリオの記事です。ポリオ撲滅に向かって前進しているとのこと。撲滅し、ポリオの寄付がなくなることを願ひます。
 64 ページ。高崎ロータリークラブが脅威の会員増強という記事です。期首 64 名から 101 名の大規模クラブとなったそうです。当クラブも頑張らないといけないなと思ひました。



出席報告

宮本委員長

会員数	出席	欠席	出席率	MakeUp	修正	免除
29名	18名	11名	69.23%	1名	73.08%	5名

卓話

茨城キリスト教大学講師

吉井涼先生



ニコニコ BOX

川崎委員長

- ◇ 吉井涼先生、卓話楽しみにしています。
石川会長・川村幹事・星 勝治・木本貴一・山本忠安・石川國博・鈴木俊彦・鹿志村高道・弓野博司・川崎健輔・千葉県三・鈴木幸一・小澤 興・宮本尚彦
- ◇ 前回欠席。
高島章行
- ◇ やっと涼くなりました。
信太克己
- ◇ よかっぺまつりまでもう少しです。本日はお楽しみカードの販売をいたしますのでよろしくお願ひいたします！
朝日正道
- ◇ 幸作さん、入会お待ちしております。
荒川浩信
- ◇ よかっぺまつり実行委員
桜井 恵様、石川欣央様、赤津幸作様



本日も多くの方からニコニコ BOX へのご協力 誠にありがとうございました



本日計 30,000 円	累計額 438,850 円
--------------	---------------



プログラム

庄さんに奨学金の授与



よかっぺまつり実行委員会 桜井キャップ

- 第42回よかっぺまつりは、「進撃のよかっぺ」と題しまして準備を進めさせていただいております。9月12日に開催されますので、例年同様ご協力いただけますようお願い致します。ありがとうございます。

- はじめまして。茨城キリスト教大学文学部児童教育学科から来ました吉井と申します。教員養成を担当しています。
- 私自身は1900年代のアメリカの歴史を主に研究してきました。
- 今日は、最近の教育のトレンドや日立市の障害児教育支援やコミュニティの役割についてお話したいと思ひます。
- 最近、インクルーシブ教育という言葉が大きなキーワードになっています。「障害のある子供とない子供が共に学ぶ」ということが日本での使われ方です。
- 特別な施設で学ぶということが差別ではないのか、排除ではないのか、という議論が出てきております。
- 日立市の場合は、日立市特別支援学校がありますが、全体的には数が少ないです。自分のコミュニティと離れた学校に通わないといけません。地域の繋がりが薄れるという限界が、特別な学校にはあります。
- コミュニティ（地域）が責任を持って子供を育てていくということが重要です。地域再生に学校が持つ役割は大きく、社会改革になっていくというのが欧米でのインクルーシブ教育です。
- 「コミュニティ」が教育を含む社会科学の分野では重要なキーワードです。商店街や町内会もコミュニティです。お祭りは地域にとって、重要な役割があります。アメリカでは教会が大切な場です。
- 日立市は現在、障害児支援において2つの課題があると言われております。
- 1つ目は、就学前の子供が支援を受ける場が少ないことです。障害の疑いがある子供が、専門のお医者さんの診察を受けるまでの道のりが長いです。
- 2つ目は、障害のある子供の親への支援をする場が少ないことです。
- 茨城キリスト教大学では、乳幼児の親子を対象に「子育てカフェ」という取り組みを6月から始めています。将来的には障害のある子の支援の場にしていくという構想もあります。
- 子供たちの救いの場が地域の中に広がっていけば、コミュニティが、コミュニティの中にいる子供たちの教育や私生活に責任を持てるのではと思ひます。
- ありがとうございます。

会長の点鐘をもって閉会。